



# 接続ルールの在り方について

2009年3月6日  
日本通信株式会社

## ①新たなプレイヤーの参入促進: MVNO制度

公正な競争環境構築により、顧客ニーズの多様化に業界全体として対応

## ②世界をリードしている3Gを、今こそ活用して経済成長

国として20兆円規模の先行投資: 収穫期に

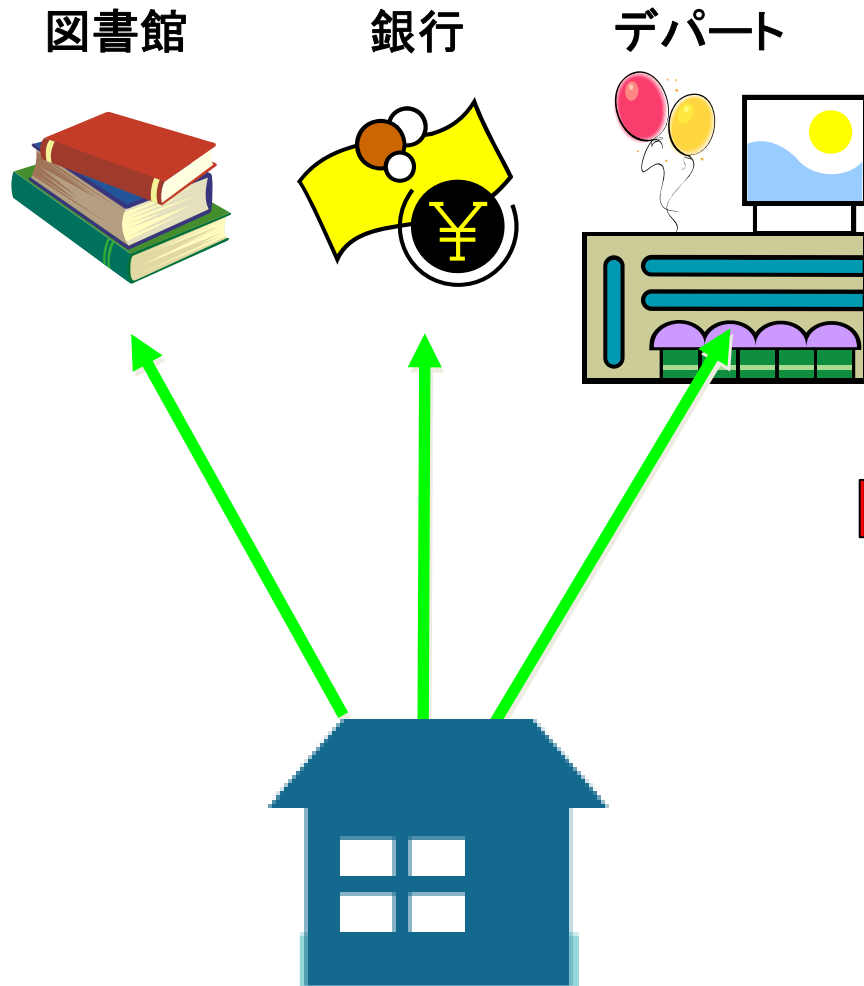
## ③次世代インターネットを日本から

モバイル・インフラ及びファイバーインフラ大国の日本ならではの

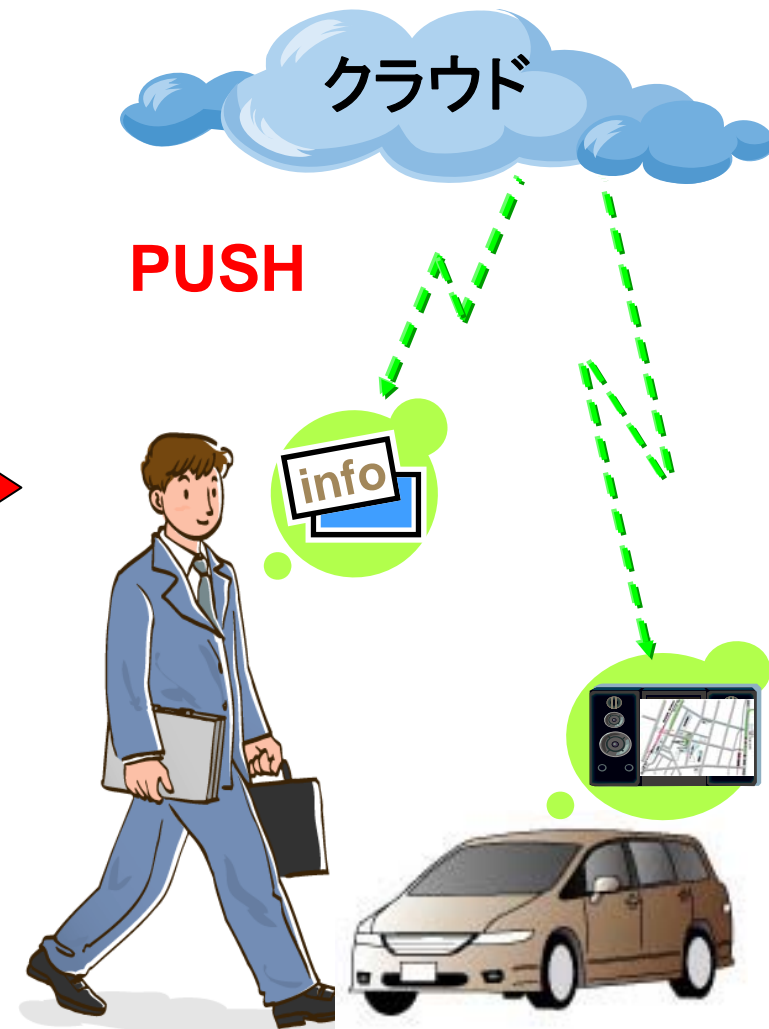
# 次世代インターネット



## インターネット



## 次世代インターネット



# コンピュータ業界の取り組み



## クラウド

	PC	ケータイ	ミュージック プレイヤー	TV	カーナビ
Microsoft	○ Windows	○ Windows Mobile	○ Zune	○ Xbox	○ Windows Automotive
Apple	○ Mac	○ iPhone	○ iPod	○ Apple TV	-
Google	○ Chrome	○ Android	-	○ YouTube	○ Google Map
携帯キャリア	-	○	○	-	-

# 変化：サービス競争時代へ

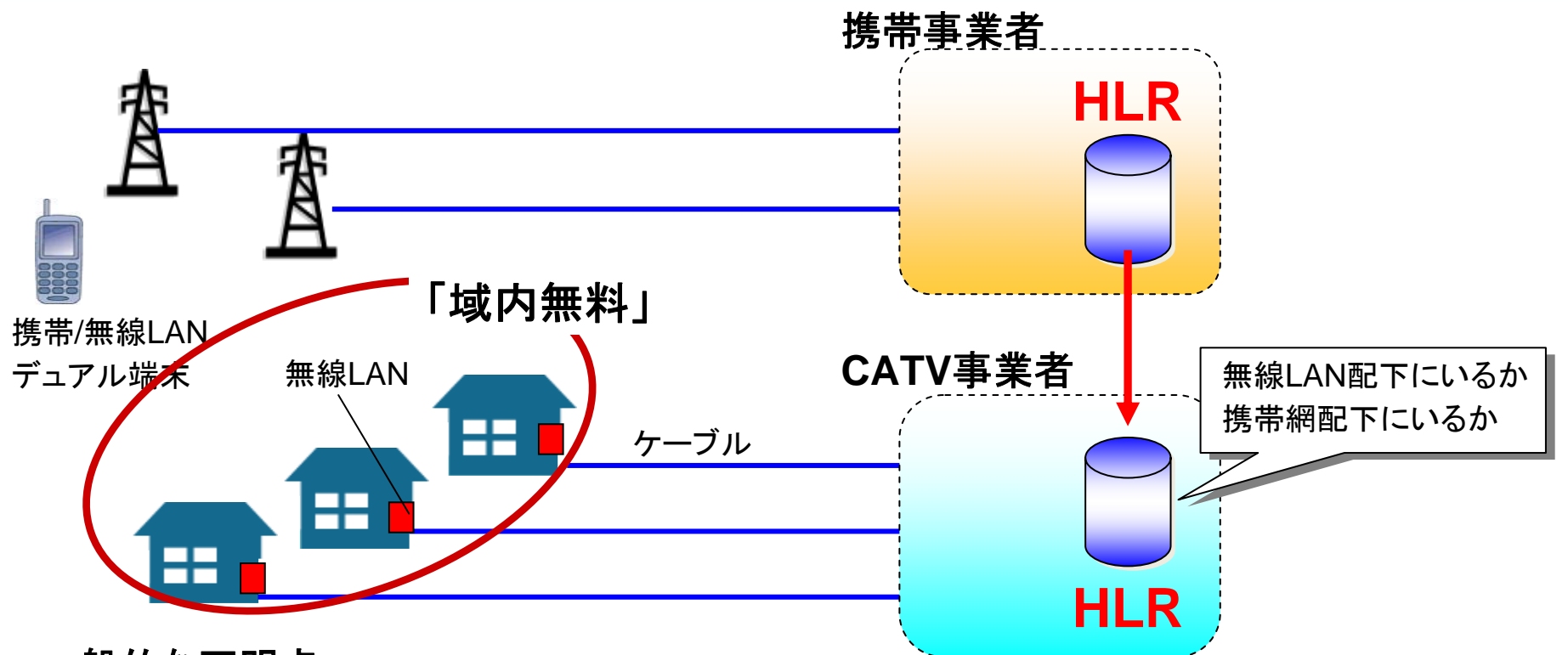


レイヤー	変化	例
アプリ/コンテンツ	音声通話からデータ通信、インターネットへ	端末の多様化に伴い、データ通信中心に多様化
プラットフォーム	ネットワーク設備事業者が主に運用	携帯プラットフォーム、NGN
ネットワーク	有線・無線ともに多様化	有線: DSL、ケーブル、ファイバー、NGN... 無線: 2G、3G、WiFi、WiMAX、次世代PHS、LTE...
端末	ホスト・デバイスの多様化	携帯電話 → 自動車ナビ、ゲーム機、PC、自販機、ATM、家電、産業機器...



- ①多様化に対応するため、プレーヤーを増やすことが喫緊の課題
- ②プラットフォーム事業者を生み出す環境整備が必須

# ふるさとケータイの構想例



## 一般的な不明点

- ①デュアル端末はどの無線LANでも使えるのか？
- ②デュアル端末に無線LAN用IP電話アプリケーションを入れて使えるのか？
- ③HLRの接続は可能なのか？
- ④可能な場合の費用は？（開発費、使用料）
- ⑤プッシュ機能（呼び出し）を使えるのか？費用は？



※Home Location Register  
(加入者の位置情報などが登録されたデータベース)

# 新たなプレーヤー参入のための環境整備



領域		提案	
事業の予見性を高める	技術面	接続箇所	標準的接続箇所を外部委員会等で3年毎に見直し
		アンバンドル機能	アンバンドル機能を外部委員会等で3年毎に見直し
		プラットフォーム機能	他事業者がプラットフォームを提供できる環境を整備
	料金面	接続料金	規制会計の整理を義務付け
		開発費	標準的接続箇所の構築はMNO負担 開発費の第三者監査を義務付け
公正な競争環境を整備する	事業者間	対設備事業者 (MNO)	同一カテゴリ-MNO同士のMVNO事業の禁止 (設備事業者の将来投資を担保)
		紛争処理	紛争処理の手前のプロセスを充実
	対顧客	不当廉売の未然防止	規制会計の適用と原価計算方法を確立
		不公正取引の防止	事後規制の強化(調査権を付与)

## 事前規制から事後規制へ

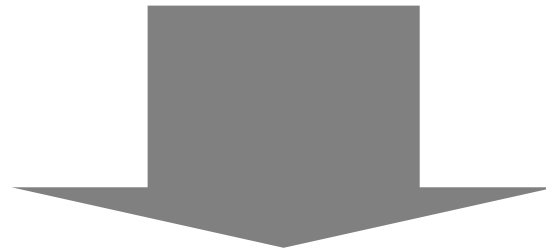
- ・相対取引(契約)を認めた
- ・料金・約款規制→原則廃止

### 業界及び顧客の声

- ・不当廉売がまかり通っている。
- ・ターゲット顧客への過度な割引と一般消費者料金とに大きなギャップ。
- ・市場で起こっている不公正取引は、証拠入手が極めて困難。



日本は、通信技術・インフラ及び規制環境で  
世界をリード



今こそ活用すべき